

スーパーキッズ（相模原市南区）は、親子のためのクラシックコンサート「音楽の絵本」「ズーラシアンプラス」を活動の中心に、親子コミュニケーションを醸成、子どもたちの感性を豊かに育むことを目的とした文化芸術事業を展開しています。1989年の設立以来、クラシックコンサートの開催を通じて社会への貢献を理念として掲げ、音楽CDの製作・販売なども手掛けています。

■子どもの感性を育む

「音楽の絵本」は、読書の世界における絵本のような役割を担うコンサートとして、クラシック音楽への入門という役割を担ってきました。

それに対し、「ズーラシアンプラス」は、演奏者が人体着用のぬいぐるみで希少動物に扮して奏でる金管楽器オーケストラで、2025年に結成25周年を迎えます。大塚治之社長は「ズーラシアンプラス」は、動物たちに扮して演奏するため、子



どもたちにも親しみやすく、新しい高校音楽の教科書にも採用されました」と明かします。

コンサートは国内外で年間150公演を数え、公演プログラムの企画から、作曲家への楽曲制作管理、演出、衣装などを含め、すべて一貫して自社で行っています。こうした取り組みが評価され、同社は13年、経済産業省から「がんばる中小企業・小規模事業者300社」にも選

クラシック音楽への道案内

「絵本」のような役割担う

（株）スーパーキッズ
代表取締役

大塚 治之さん

定されました。

■コンサートが事業の柱

同社は子ども向け以外にも、国内オーケストラの首席奏者たちとスタジオ界のトッププレイヤーがタッグを組んだ『侍BRASS』など複数のユニットを抱えています。「当社にはさまざまな事業があり、コンテンツ制作や販売も行ってい

ます。ただ、売り上げの比率でいうと、半分以上はコンサートが占めています」（大塚社長）。

そのコンサート事業は、各地へ出向いて出演料をいただくパッケージ型と、オーケストラの編成や内容を自由に決められる主催公演の両輪で推進。「主催公演は、今まではどちらかというと関東を中

心に行っていました。が、今後は他のエリアにも増やしていこうかと考えているところです」（同）。

■地元相模原市でも公演を

特に国内では名古屋と大阪での主催公演を増やしていきたい考えで、24年5月に名古屋音楽大学と連携・協力を結んでいます。今後は、両者の音楽文化における専門的知識・技術や環境を活かし、地域音楽文化の振興への貢献を相互協力により進めていくとしています。

「私は大学生の時から相模原市内に住し、また会社も市内にありますが、現在は相模原での公演がないため、今後は地元でも開いていきたいです」（同）と話しています。

